

経皮吸収型製剤（貼付剤）^{ちょうふ}について

貼付剤とは、皮膚から吸収されて作用する薬剤です。貼付剤の中には貼付部位付近に作用するものと、全身に作用するものがあります。今回は院内で使われている、鎮痛薬を除く全身に作用する貼付剤についてまとめてみました。

| | ビソノテープ | ホクナリンテープ | フランドルテープ |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| |  |  |  |
| 一般名 | ビソプロロール | ツロブテロール | 硝酸イソソルビド |
| 規格 (院内採用品) | 2mg, 4mg, 8mg | 0.5mg, 1mg, 2mg | 40mg |
| 適応 | 本態性高血圧症（軽症～中等症）、 頻脈性心房細動 | 気管支喘息、急性気管支炎、 慢性気管支炎、肺気腫 | 狭心症、心筋梗塞、 その他虚血性疾患 |
| 効果 | 交感神経の働きを抑える → 心臓の負担を軽減 血管を拡げて血圧低下 | 気管支を広げる → 息苦しさを改善 | 心臓の冠状動脈を広げる 静脈を広げる → 狭心症発作を予防 |
| 使い方 貼付部位 | 1日1回 胸・背中・上腕 | | 24時間または48時間ごと 胸・上腹部・背中 |
| 起こりやすい 副作用 | 皮膚掻痒感 (6.0%) 皮膚炎 (3.7%) 徐脈 (1%以上) | 皮膚掻痒感 (2.5%) 振戦 (3.8%) 心悸亢進 (2.66%) | 接触皮膚炎 (5.15%) 頭痛 (0.98%) 血圧低下 (0.19%) |
| はがれたときの 対応 | 剥がれたテープ剤を絆創膏等 で固定する | 貼付後12時間経過していた場合、 通常貼りなおす必要はない (医師の判断で再貼付もあり) | 部位を変えて貼り直す |
| 入浴時・MRI 時の対応 | つけたままOK | | |

フランドルテープは貼ったまま入浴すると、血管拡張作用が増強し、血圧低下作用が強くなります。そのため、一時的に剥がすこともできます。



貼付剤のメリットは、薬物の血中濃度を一定に保つことができる、食べ物を食べることが出来ない患者さんにも投与できる、目で見て服薬を確認できる、すぐ剥がして中断できるなどがあります。しかしデメリットとして、痒みや紅斑などの皮膚障害を生じることがあります。

皮膚障害は皮膚のバリア機能が低下していると発現しやすくなるため、保湿剤を使い適切なスキンケアをすることが大切です。また、貼り替える際にはゆっくりと剥がし、貼付部位を変えるようにしましょう。

皮膚表面を良好な状態に保つことは薬剤を安定して吸収させるためにも必要です。

今回紹介した薬剤は入浴時やMRI時に剥がす必要はありませんが、貼付剤の中には入浴時やMRI時に剥がす必要がある薬剤もあります。迷ったときには医師、薬剤師に相談して下さい。